２０２５年（令和７年）　６月２日　月曜日

デーリー東北　１面　掲載

看護師確保へ手厚い支援

むつ市 安定採用と定着図る

八学大キャンパス運営費補助

むつ病院10年勤務で学費免除

看護師を目指して学ぶ八戸学院大むつ下北キャンパスの１期生＝４月

10年働けば学費を全額免除します！。むつ市は不足する看護師を確保しようと、本年度開校した八戸学院大むつ下北キャンパスに対し、手厚い支援を展開している。キャンパス運営費を補助するほか、学生に対しては、むつ総合病院に勤務することを条件にした学費免除制度も。背景には、地理的条件などから若者流出に歯止めがかからない現状への強い危機感がある。初年度は11人が入学し、学びをスタート。若者の流出が地方共通の課題となる中、施策の効果が注目される。（佐藤航）

むつ総合病院によると、看護職員の離職者は年20人以上だが、採用は10人前後にとどまる。市内に養成施設がなく、毎年20人程度いるという看護師志望者は市外に進学。進学先の地域や好待遇の首都圏などで就職するケースが多いという。

杉澤一徳事務局長は「一度出た若者に戻ってきてもらうのは、地理的条件もあって難しい。同じ仕事をするなら都会を選ぶ人も多い」と頭を抱える。

人手不足を補うため、看護師をサポートする看護助手を増やし、医療体制を維持している。ただ、無資格の看護助手ができる業務は限定的。夜勤の人員確保が難しい状況で「日々の対応で手一杯。質を維持し、高めるには退職者以上の採用は不可欠」との認識を示す。

医療環境を維持するため、市は八戸学院大の看護学科に特化したサテライトキャンパスを誘致。学生が八戸市のキャンパスに週２回通うためのバス１台約１３５１万円と、看護学習に必要な備品の購入費約５５０万円を負担したほか、運営費として賃料相当額４５００万円とバス運行費約２８０万円を毎年補助する。学生には「むつ総合病院に10年間勤務すること」を条件に返還を免除する修学資金貸与制度を創設。入学金と授業料、パソコンなどの学習教材費を含め、１人約６４０万円を見込む。

市企画課の井戸向秀明課長は「地元で学べる場をつくることが若者定着につながり、安定した仕事という意味ではUターン時の選択肢にもなる。人口減で確保はどんどん難しくなるので、今のうちに一人でも多く確保したい」と強調する。

手厚い支援が進学の後押しになったという学生もいる。山口史穂さん(18)は「親への負担が少なく、家から通えるので選んだ。就職先が決まっているのも、勉強に集中できることにつながる」と魅力を話す。

今後は、むつ総合病院で臨地実習を行うほか、看護助手のアルバイトとして受け入れるなどし、スムーズな定着につなげたい考え。

杉澤事務局長は「毎年10人程度が確実に就職してくれるのは、医療体制を整える上で非常に大きい。より多くの人が地元で看護師を目指してくれるように、大学と連携して取り組みたい」と述べた。

デーリー東北新聞社提供